

## 令和5年度新指定重要文化財の諮問について

令和5年（2023年）12月に開催予定の文化財専門審議会（委員長 平田大二）で、次の文化財を指定すべき重要文化財として諮問いたします。答申は令和6年（2024年）1月の予定です。

1	名 称	板著色 石工祈不動明王図額
2	種 別	有形文化財（絵画）
3	数 量	1面（縦47.7×横72.0cm）
4	所 在 地	横須賀市 久里浜2-8-9
5	所 有 者	宗教法人 長安寺
6	概 要	久里浜の長安寺に伝わる明治時代の河鍋暁斎による額絵

### ●制作背景

久里浜出身の峯島茂兵衛による明治4年（1871年）の久比里坂開削の際に、交通安全を願って石造不動明王像の造立を企図したと伝えられる。その石像造立時に石工木村藤兵衛の工房一帯が火災にあったが、工房だけは火災を免れた。これを不動尊の守護として、報恩のため本図の制作が企図されたということのようである。石像は火難を逃れて無事完成し、現在は長安寺山門入って左手の覆屋内に安置され、「火伏せ不動」と呼ばれている。

### ●画面構成

左側から迫りくる火災の中、虚空に化現した不動明王を拝礼する石工を描いた額絵である。傍らに彫りかけの石像が横たえられている。

不動明王は丁寧に描かれ、火焰光背と円相に塗られた赤、緑の色彩対比も鮮やかな効果をあげている。そして、更に金砂子による装飾を加えた念入りの仕上げである。家を護るよう大胆に配置した雲形の表現は力強く、背景を暗く落として朱、代赭を濃淡使い分けた炎の描写も筆がよく動いている。

### ●作 者

画面左下の「応需惺々暁斎」という款記により河鍋暁斎の筆と知られる。河鍋暁斎（天保2年（1831年）～明治22年（1889年））は、幕末・明治前期に活躍した画家である。古典から当世風俗まで多岐多彩な作品を残している。旺盛な筆力と強烈な個性により、今日なお人気が高い。

### ●評 価

額絵としては比較的小品であり、画風も暁斎としては温和であるが、その作例の一つとして評価される。また、久比里坂開削、火伏せ不動明王像の造立など横須賀ゆかりの事跡を踏まえた歴史資料としても貴重である。



板著色 石工祈不動明王図額



住宅地図：Copyright (C) 2023ZENRIN CO.,LTD (Z23JF121)

基盤地図：この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。  
「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R5JHs252」

長安寺 位置図